

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

ドキュメンタリー映画「**福島は語る**」

日時▶2020年1月11日(土)
①10:00 ②13:20 ③16:40

会場▶せんだいメディアテーク7F
スタジオシアター

料金▶大人 前売り券1000円 当日券 1300円
学生 500円 高校生以下 無料

主催 / こどもたちを放射能線汚染から守り原発から
自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ
TEL:022-215-3120

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部 50円



訪問前の行動説明

宮城県民医連2019災害公営住宅訪問調査 被災者の声が 国や県、市に届いていない

宮城県民医連では、2015年から毎年災害公営住宅訪問調査を行ってきました。今年は5回目の訪問調査になります。

11月9日、10日、14日、16日に仙台市、塩釜市、多賀城市、東松島市、七ヶ浜町、利府町、松島町の災害公営住宅を職員と共同組織で訪問しました。私が参加した長町での行動を報告します。あすと長町2で話を伺った方は、夫婦で集会所での催し物に参加し、近所付き合いもされている方。「緊急時に駆けつけてくれる人はいるが不安がある」「寒さに向かう中、暖房費など節約できるものはしていく」と話されています。病院に通院しているという方は、「年金暮



ひとつひとつ確認しながら聞き取り

また別の自宅では、親が認知症、兄弟が難病で自宅介護でお悩みでした。やはり、一人暮らしで、近所付き合いもないと言っておられました。難病で病院通いが大変と話す方もいました。

訪問を終えて帰る際、エレベーターで大きなバッグを抱えた女性と会いました。「大きな荷物で

厚生福祉会の大内誠事務局長に20年を振り返り、その間の問題点を書いていただき、4回に分けて掲載します。

◆ ◆ ◆
介護保険制度は2000年に開始され、今年で20年目に入っています。

「介護保険制度20年と私たちのあゆみ」①

厚生福祉会 事務局長 大内 誠

介護保険制度は2000年に開始され、今年で20年目に入っています。この20年間で介護保険制度は大きく変わりました。その間の問題点を4回に分けて掲載します。

介護保険制度が創設された背景には、社会的入院や家族介護の深刻な実態がありました。「介護の社会化」を謳い1997年に介護保険法が成立しました。

介護保険制度は3年に1回の報酬改定と、5年に1回の法改正があり、この20年間で6回の報酬改定と、3回の法改正、そして4回目の法改正に向けて現在政府では討議が進められています。20年のうちに10回の介護保険は内容が変わるわけですから、高齢の方にとって介護保険を理解することは難しく、このことだけを見て利用への不安があります。



社会保障制度の拡充を

福祉は「幸せ」を意味し、私たちは人の幸せを支える仕事です。幸せという一人ひとりによって異なるものへの支援に対して、「身体状態の改善」から評価を図るという矛盾した方向へ突き進んでいます。

この間の社会保障制度改革の大元には、「消費税でまかなうこと」と「医療

この20年で介護保険はどのように変わり、私たち利用者・家族の皆さんへの影響はどうなってきたでしょうか。介護保険の20年を振り返り、これから国が狙う介護保険制度の改善について述べていきたいと思います。

介護保険制度は2000年創設当初から「持続可能性」について議論されてきました。改定のたびにキーワードとなってきました。国民生活を支えるためにできた介護保険制度ですが、「国民生活の持続可能性」ではなく、「介護保険制度の持続可能性」が制度検討の前提となってきました。また、介護とはそもそも、その方ができなくなった生活行為を支える「生活の継続」を図るものですが、介護保険制度は基本単位を削減する一方で加算方式となり、その成果を「身体状態の改善」で測る方向へ進んでいます。

た。日照権の問題はやはり深刻だと感じました。参加者の感想を紹介いたします。

「はじめて参加しました。住民の生活状況や困っていることを直接聞くことができ、訪問の重要性を肌で感じました。2年々復興している状況が報道されているが、実際にはまだまだ心の整理がつかなく、体調不良や経済的

に厳しい状況の方々の声を聞いて、定期的に訪問行動をしていくことの大切さを痛感しました。」「積極的に交流をしている人がいらつしやる一方、全く近所付き合いをしていない方もおり、公営住宅の難しい課題だと思いました。」「お話を聞いた中で、家賃が上がる不安が多かったです。生活再建のためにある公営住宅が家賃によって経済的不安を生じさせてしまっているのは本末転倒。被災者の声が国や県、市に届いていないのだと感じました。」「医療費が心配で受診を控えた方がいらしゃ



体調も聞きながら

いました。医療費免除の復活と訪問行動の必要性を感じました。」「東日本大震災から8年以上が経過しても、まだ困難を抱えている人たちがいます。被災者の状況を直接見て実態を把握していく訪問行動を継続して取り組むことが重要です。」「地域共生社会」の創設が進められています。



クリスマス飾りつけ

医療・介護は一体的に「医療から介護へ」「施設から在宅へ」と、すべて「川上から川下へ」社会保障費を圧縮し、公的負担を減らすために進められているというところを見ておく必要がある、その中で介護保険の位置づけを考えると、制度変更の歴史と私たちへの影響を見ていくことが大切です。

(続く)

健康手帳

11月、80代の高齢者が東松島市の災害公営住宅(11ヶ所、811世帯)を歩き回る。一つの住宅を歩き回ると、おもむろにポケットから「ガラ携」を取り出し「1800歩」等と言いつつ、次の住宅へ。松島医療生協の災害公営住宅調査活動のポスティング風景である。▼最近、ニュース等で高速道路逆走や徘徊等、高齢者に関する話題が頻繁にある。高齢者の運転免許証の返納も話題になっている。松島町の郡部に住む高齢者世帯にとって「返納」は、生活の質を低下させ「フレイル」を進行させる等簡単にできることではない。しかし、まもなく「返納」時は来る。▼隣近所に医療生協の新聞や食事会の案内チラシ等を配布し、言葉を交わし一軒一軒歩きまわる高齢者もいる。自身自身の運動機能の維持につながるだけでなく、地域づくりを実践している。▼歩き回ることからウォーキングにつなげ、運動習慣、生活機能向上につながる活動を広げたいものである。高齢者が集まる班会や支部集いなどで話していきたい。▼医療生協運動は、地域コミュニティも大切にしたい。高年齢になっても取り組める運動であり、「フレイル」を予防し、健康寿命を延ばすことにつながるものである。

第47次 辺野古支援連帯行動に参加して

沖縄を視て、聴いて、感じてほしい

事業協同組合物流総合センター 門間 秀人



普天間基地のオスプレイ

11月20日から22日まで、県連帯行動のメンバーと行動を共にして首里城へ。残念ながら先日の火災で中は入れず、守り門から正殿跡を正面に左側の城壁沿いを拝観、城壁上部からわずかに焼けた屋根の一部が見えま

翌20日は那覇空港よりバスで移動、全工程でガイドしていただいた瀬長和男さんより普天間の現状・今後の行動などの説明をしていただきながら嘉数高台公園へ。展望台より普天間基地とオスプレイを見学。同高台内にあるトーチカ、陣地豪跡で戦中の役割と米軍の動きなどを説明していただき

は、県連帯行動のメンバーと行動を共にして首里城へ。残念ながら先日の火災で中は入れず、守り門から正殿跡を正面に左側の城壁沿いを拝観、城壁上部からわずかに焼けた屋根の一部が見えま

翌20日は那覇空港よりバスで移動、全工程でガイドしていただいた瀬長和男さんより普天間の現状・今後の行動などの説明をしていただきながら嘉数高台公園へ。展望台より普天間基地とオスプレイを見学。同高台内にあるトーチカ、陣地豪跡で戦中の役割と米軍の動きなどを説明していただき

のたの轟音は酷いとの説明を受けました。夜は辺野古の現状、今後のたかいを元名護市長の稲嶺進さん、高江ヘリパッドの経過と今後を伊佐真次さんよりお話いただきました。

2日目は高江ヘリパッドと辺野古建設現場を視察しました。高江では3年かかる予定のヘリパッドが5か月で4つできたこと、座り込みに対することによる訴訟には7歳の子どもも入っていたこと、何度か撤去されたテントは日本の法律ではなく、日米地位協定のもとで行われたことに怖さを感じました。辺野古では天候が悪く、海上には出られませんでした。資材搬入口での座り込み、そこで繰り返された強制移動などテレビからは感じられない緊迫感が伝わ

つてきました。高江・辺野古双方とも民間警備会社が入っており、そのどちらにも1日で数千万にも届く税金が投入されていることに驚かされました。

3日目は沖縄戦で多くの人が避難、または軍の病院機能として使われたアブチラガマを見学、当時の空気がそのまま感じられるかのような雰囲気と当時の戦火の跡がところどころ残されていました。明かりを消すと暗闇になり、なお一層体がこわばりそうでした。平和祈念館では、当時の日本軍の状況や米軍の侵攻状況などが映像で流れていたり、戦火を逃れた人たちの生々しい証言が残された資料を読むことができました。ここでは間違った軍事教育やデマに翻弄されて亡くなった人

や、同じ日本人の敗戦兵によって惨殺された人々が居たことなど、戦争では想像を遙かに超えた出来事があることを感じさせられました。

今回ガイドをしていた

連載 101 私の好きな憲法は何条?

宮城民医連 事務局 大賀直純

私の好きな憲法は何条か、25条など色々とありますが、一つ挙げるとすれば憲法前文が好きです。前文は日本国民が目指す方向を指し示す、言わば羅針盤です。憲法前文には大日本帝国憲法のもと、主権が国民にない中で戦争の道に突き進んだ反省をもとに、憲法制定の意義や目的を記しています。そして国民みずからが主人公であることを前面にして、国民主権と平和主義を謳っているのです。つまり、現行憲法の下で私たちが日本人として世界の中でどんな国を目指すのか、

日本が世界から信頼され人類が共存し発展の為にどんな役割を果たすのかについて世界に向けて宣言しているのです。

特に好きなのは2段落目からの「日本国民は恒久の平和を念願し、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」の下です。私たち日本人が安全に生存することを保つには、武力ではなく、再び戦争が起こる事がないように願う平和の大切さを考えること、私たちと平和について同じ考えを持つ諸国の人々を信じ、手を携えて歩むことと記し、さらには国際社会の中で差別や偏見、格差などをなくすために積極的に日本が取り組ん

でいきたいという意気込みが書かれているのです。他国では、民族、宗教、歴史、国の成り立ちについて記された憲法前文を持つ国が多い中、日本国憲法の前文では諸国の人々、強いて言うならば人類を信じ、共に平和な世界を作る事によって必然的に国民が守られるとしており、70年以上も前にできた憲法とは思えないほど画期的な内容で、改憲派の言う古さは微塵も感じられません。世界から注目されているのも頷けます。

今、憲法は安倍政権の下で歪められ、国民が望んでいない憲法9条改正の議論が進められています。アメリカと共に武

ピーチャリ 志津川の災害公営住宅で懇談

県連事務局 中川 恵介

11/23(土)〜24(日)、実行委員長である千葉茂樹医師の地元・南三陸町で『みやぎ反核自動車平和リレー(通称みやぎピーチャリ)』が開催され、職員や共同組織の仲間20名が参加しました。

初日は、天候が心配されましたが、ピーチャリ中は雨が降らないというジンクスは今回も守られました!復興工事が進む志津川地区を自転車とランニングで走行。さんさん商店街近くの交差点ではスタンディング宣伝も行い、車内から手を振り返してくれる人もいて楽しいアピールとなりました。休日ということもあり、海沿いは大型バスや県外の車も目立つ一方、高台の住宅街は人通りもまばらで少し寂しい印象を受けました。千葉医師による事前学習の「人口流出と高齢化が心配」の声を実感しました。

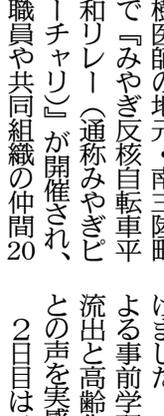
2日目は、自治会長

さんのご協力もあり、志津川の災害公営住宅の集会所をお借りして、9名の入居者からお話を伺いました。民医連の事業所がない地域でのごうした取り組みは今回が初めてで、矢崎とも子医師や坂田事務局長も駆けつけ懇談しました。最初は緊張している様子の方も、千葉医師が「ちばのり店」のご家族だと知ると一気に雰囲気も変わり、今の暮らしがふりや医療・介護への心配事、震災当時の様子などをたくさんお話されました。懇談後には

住宅への調査用紙のポストイングも行いました。今回の調査内容は、仙台市や二市三町での調査結果も含め、行政への申し入れなどに活かしたいと考えています。

震災後に入職した職員も増える中で、民医連職員として、3・11当時を振り返り、そこからどう社会や生活が変化しているか、自分達には何ができるのか、何をすべきなのか、など向き合うことの意味を考える機会となりました。この経験を次に繋ぎ、平和で安心できる社会・暮らしを実現するため、ぜひ一緒に行動していきましょう!今後みやぎピーチャリだからこそできることを追求し、職員や共同組織の仲間、地域の皆さんと楽しく活動していきたいと思っています。

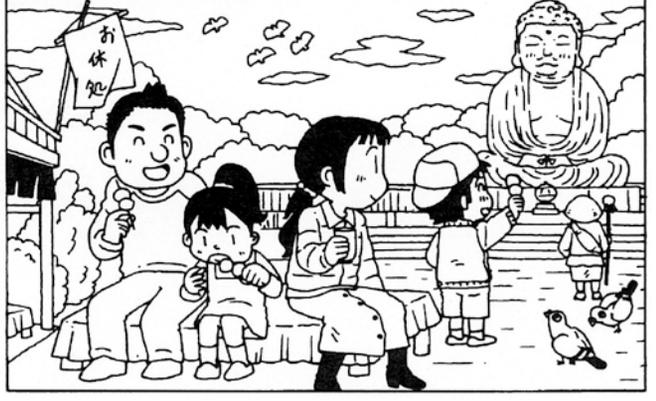
最後になりますが、今回の開催にあたり、カンパなどたくさんご協力を頂き、ありがとうございました!



入居者と懇談しながら聞きとり



【問題】上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります!どこでしょう?(作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。Facebookは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。声の欄に掲載させていただきます。応募資格:臨時・パート含む県連職員。締切11月15日。当日消印有効。発表2月1日。11月15日発表。シヨウヒセイ(消費税)応募総数13件。

当選者:湊夏美/坂病院、小野寺真梨/坂病院、丹野俊子/クアステーション/おかせ/植原渉/事業協同・若貴明子/南光台地域包括支援センター(敬称省略)